

## 大阪 24 区と『大阪人』

14 日に開催された大阪府市による「住民理解促進のための意見交換」会なるものを傍聴したが、経済(正確には財政)効果に関する議論とともに、大阪 24 区についても気になる発言があった。土居丈朗・大阪府市特別顧問は、東京より小さい大阪市に 24 区もあるのはおかしい。松井一郎・大阪市長も市民は行政区に対する意識が強く、それが非効率を生み出している。大阪市を廃止して 24 区を 4 特別区に再編すれば、効率的になるなどと発言していた。

写真上は大阪府・大阪市副首都推進局が 3 月に発行したリーフレットである。区割りについては「4 区間の財政状況や将来人口のバランスに加えて、コミュニティ、歴史的経緯、交通網や商業集積などを考慮し定めています」と述べている。

大阪市を廃止して 4 つの特別区に分割して、基礎自治体として機能できるのか、現在の 24 区体制と比べて持続可能で住みよい街になるのか多くの疑問が出されている。松井市長は区割りなんて重要でない、などとテレビで発言していた。区割りは、そこに住み続ける住民にとって、地域や自治体としての一体性を高めるうえで、きわめて重要な問題である。私が住む新淀川区は、淀川北に東淀川区・淀川区・西淀川区、南に此花区・港区が並ぶ。淀川をはさんだ 5 区が一つになって、地域としての一体性が保てるのだろうか。



松井発言などを受けて、『大阪人』2011 年 9 月の特集「旅する 24 区」を思い出した。個性豊かな 24 区について、書き手がうまく表現する「大阪紀行」である。まだ馴染みのない区もあるが、それぞれの区の歴史と風土、まちの個性と魅力について調べていきたい。



ところで、『大阪人』という雑誌を長らく愛読してきたが、残念なことに 2012 年 5 月発行をもって休刊となった。名古屋にいた頃、『大阪人』と『東京人』を書店で購入して、足もとから大阪と東京についての関心を高めていた。

『大阪人』休刊のお知らせには、次のように書かれている。『大阪人』は大正 14 年(1925)12 月、当時の大阪市長・関一が設立したシンクタンク・大阪都市協会が創刊した『大大阪』が前身でした。『大大阪』は近代都市・大阪市のあるべき姿と解決すべき問題を記事の柱にして、市民生活と市政の動きを伝えるものでした(中略)『大大阪』の時代から数えますと 87 年という長い年月にわたり」発行されてきた。

『大阪人』休刊と大阪市廃止の動きとは、なんだか重なるようなものを感じる。

(2020 年 8 月 17 日)